





## 審査結果報告書

2020年8月31日

主査 氏名 岡本浩嗣 

副査 氏名 岩瀬和也 

副査 氏名 佐藤俊哉 

副査 氏名 宮田 等 

1. 申請者氏名 : 金子淳太郎

2. 論文テーマ : Practical issues in measuring autoantibodies to neuronal cell-surface antigens in autoimmune neurological disorders: 190 cases  
(自己免疫性神経疾患で抗神経細胞表面抗原抗体を測定する際の実臨床上の留意点: 190例における検討)

申請者は自己免疫性神経疾患において、神経細胞表面抗原

3. 論文審査結果 : (NSAs) に対する自己抗体 (抗 NSA 抗体) を測定する際の臨床上の課題を明らかにする目的で自己免疫性神経疾患疑いの 190 例を対象に、抗体の検出率及び表現型と NSAs との関係について後方視的に研究を行った。結果、190 例中 54 (28.4%) に抗 NSA 抗体が検出された。同定された NSAs は NMDAR が最も多かった。抗 NSA 抗体の検出率は possible AE が 34%、probable 抗 NMDAR 脳炎が 85%、definite ALE が 46%、SPSD 22%であった。表現型と NSAs との関係では、抗 NMDAR 抗体と抗 NMDAR 脳炎 (85%)、抗 LG11 抗体と definite ALE (13%)、抗 GlyR 抗体と SPSPD に関連性があった。一方、全身性自己免疫疾患 11 例と NORSE14 例ではいずれの患者からも抗 NSA 抗体は検出されなかった。結論として、抗 NSA 抗体は自己免疫性神経疾患患者の約 28%に認められ、また NMDAR、LG11 および GlyR と表現型の間に関連性を認めたことから、臨床病型に即した抗体の測定の重要性が示唆された。以上申請者の研究は、臨床的な観点からも価値が高く、それをまとめた本論文も大変優れており学位論文として相応しい。審査の場においても適切な研究の呈示と回答が得られ、審査員全員の合意の上で申請者の学位審査は合格と判断した。